

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 26人

② 算数 26人

③ 理科 26人

5 留意事項

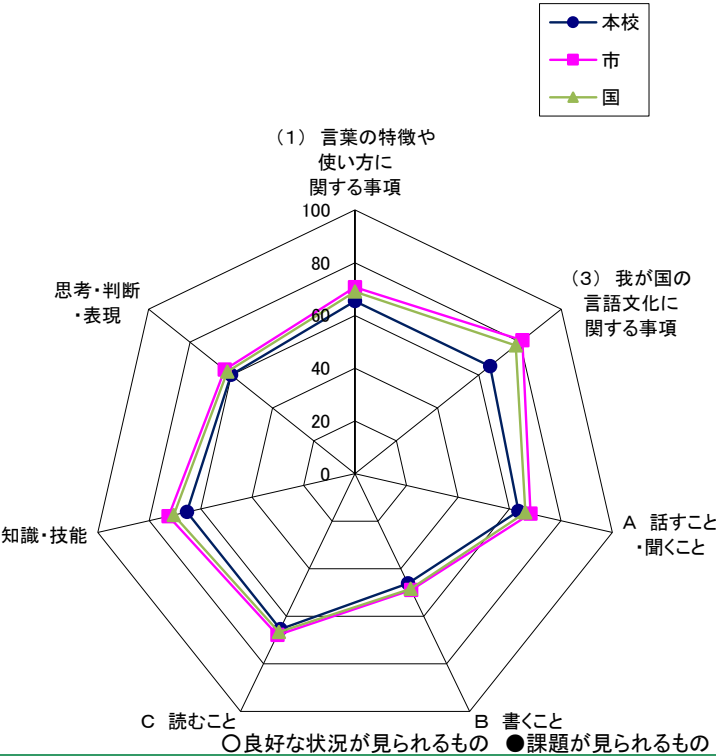
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.4	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	65.4	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	63.5	68.2	66.2
	B 書くこと	46.2	48.9	48.5
	C 読むこと	65.4	67.9	66.6
観点	知識・技能	65.4	72.5	70.5
	思考・判断・表現	60.1	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

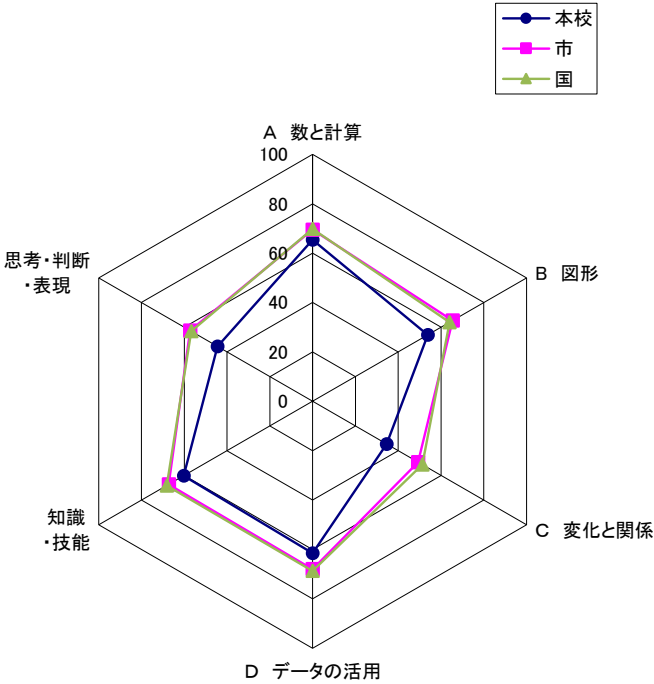
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市や全国より低い。 ○漢字の読み書き問題については、80%以上が理解して正確に書くことができる設問もあった。 ●話し言葉と書き言葉の違いや言葉のはたらきを理解することに課題がみられる。	・既習漢字に関しては、家庭学習等で漢字練習に取り組ませたり、小テストを行ったりして理解を深められるようにする。また、教室に新出漢字などを掲示したり、「漢字コーナー」などを設けたりすることにより漢字を目にする機会を増やしていく。 ・話し合い学習などで意見を発表する際、発言者に対して意見の根拠を問い直したり、発言を聞いている児童に発言者の意見をどのように考えるかを問うような場面を設け、考えられるようにする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市の全国より低い。 ●漢字や仮名の大きさや配列に注意する設問については理解に課題がみられる。	・書写の学習などで手紙を書く際に、字形の学習だけではなく、余白のバランスや縦書きするときには真つすぐに書くことなどを丁寧に指導する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は市や全国より低い。 ○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることについて理解が深まっている。 ●互いの立場や意図を明確にしながらい計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がみられる。	・決められた言葉を使い、自分の考えが明確に伝わるように書くことを様々な教科の学習に取り入れていく。 ・意見を発表したりプレゼンテーションを行ったりする学習で、普段から話し合いの後に学んだことや自分の考えなどを書く機会を設けるようにする。
B 書くこと	平均正答率は市や全国よりやや低い。 ○文章に関する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける設問の正答率は市や国の平均より高い。 ●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題に課題がみられる。	・書くことに関しては、日記指導や意見文、読書感想文など折に触れて自分の考えを効果的に書く指導をしていく。その際に、考えの根拠や理由をもとに意見を述べることを意識させたり、相手意識をもたせたりすることで、説得力のある文章を書くことができるように指導していく。 ・書いたものを、お互いに読み合う活動も取り入れ、様々な意見文や感想文に触れられるようにする。
C 読むこと	平均正答率は市や全国よりやや低い。 ○人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題や登場人物の行動や気持ちについて叙述を基に捉える問題は市や国の平均より高い。 ●文章表現の効果を考える問題については課題が見られる。	・本校独自の「よむよむ貯金」による読書の推進や記録の蓄積により、様々な文章にも触れることができていると考えられるので、今後も多様な分野の文章に触れることを推奨していく。 ・国語の物語文の授業の中で、叙述からどんな心情が読み取ることができるかを考えたり、児童間で交流したりするなどの学習活動を積極的に取り入れていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	65.4	69.5	69.8
	B 図形	53.8	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	34.6	49.3	51.3
	D データの活用	61.5	68.0	68.7
観点	知識・技能	60.3	67.3	68.2
	思考・判断・表現	44.5	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

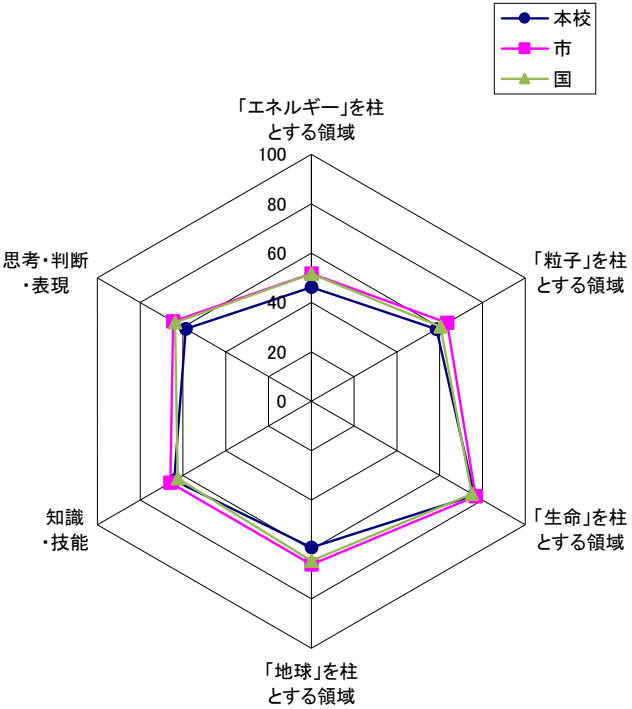
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は市や全国より低い。 ○二つの数の最小公倍数を求める設問の平均正答率は高い。 ○表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求める設問の平均正答率は高い。 ●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する設問の平均正答率が低い。	・基本的な計算の技能や知識を身につけられるようになりが、学習やドリルなどを活用しながら繰り返し練習させ、定着を図っていく。 ・日常生活などの場面を想起させ、場面や目的に合った数の処理の仕方について考える機会を意図的に設定する。また、日頃から答えの大まかな値を予想させるなど、数を見積もる習慣が付くように継続指導していく。
B 図形	平均正答率は市や全国より低い。 ○辺の長さや角の大きさに着目し、ひし形をかくことができるプログラムを選ぶ設問の平均正答率は低い、同分野の中では、県や国の平均正答率に近い。 ●長方形を作図するプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く設問では課題が見られる。	・様々な図形を作図することを通して、図形の性質を理解させたり、問題から読み取れた情報を図に書き込んだりしながら、学習内容の定着を図っていく。 ・様々な図形の性質を使って解くような応用問題を解くことで習熟、発展を図っていく。 ・プログラムを使って作図することのよさや楽しさに気付かせ、数学的な思考力の育成を図っていく。
C 変化と関係	平均正答率は市や全国より低い。 ○百分率で表された割合を分数で表す設問では、半数以上の児童が正しく解答している。 ●百分率で表された割合と基準量から比較量を求める設問や数量が変わっても割合が変わらないことを問う設問には課題が見られる。	・日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解させたり、線分図や式を用いて、基準量や比較量の関係を表したりすることで定着を図っていく。 ・伴って変わる2つ以上の数量の関係について考察したり、数学的に表現、処理する機会を設定したりするなど、工夫して指導していく。
D データの活用	平均正答率は市や全国より低い。 ○表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を問う設問の平均正答率は県や国の平均よりも高い。 ●目的に応じてグラフを選択したり、データをもとに考察したりする設問では課題が見られる。	・グラフの基本的な読み方を復習するとともに、他教科でも活用する時間を設定し、必要なデータの特徴や傾向を読み取る力の育成を図っていく。 ・データをもとに考察したり、数量の関係を式に表したりする機会を設定し、様々な見方や考え方にも触れられるようにする。

宇都宮市立瑞穂野南小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	46.2	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	58.5	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	76.2	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	59.2	66.1	64.6
観点	知識・技能	64.1	65.9	62.5
	思考・判断・表現	58.7	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は市や全国より低い。 ○「問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く」設問では全国平均正答率とほぼ同じであり、県の平均正答率よりやや高い。 ●「光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ」設問では、県や全国平均正答率より低い。	・実験を行う際には、器具や機材の使い方の確認を行い正しく使うことができるよう技能を高められるように指導する。また、器具や機材の特徴を押さえ、何を調べるための実験なのかを理解させた上で実験を行う。 ・実験を行う際には、必ず予想を立てさせ自分の考えを持った上で行う。実験の結果や考察も自分の考えを基にして、どうであったのか端的にまとめるよう指導していく。また、予想や考察の際に交流の機会を設け、異なる視点からも実験の結果を捉えられるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は市や全国より低い。 ○「一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称『メスシリンダー』を書く」設問において、県や全国平均正答率より高い。 ●「水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ」設問において、県や全国平均正答率より低い。	・授業で使用する器具や機材を使う際には、その名称や各パーツの名前を繰り返し押さえ、定着を図っていく。 ・実験では自分で発想した予想と実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討させ、それを級友と交流させることで自分の考えをもてるようにする。更に交流を通して他者の気づきの視点で分析・解釈させることで、自分の考えを明確にもてるようにする。 ・まとめに関しては端的になるよう指導をし、知識の定着を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は市の平均とほぼ同じであり、全国平均よりやや高い。 ○「昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ」設問において、県や全国平均正答率より高い。 ●「育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見出して選ぶ」設問において、県や全国平均正答率より低い。	・人や動物・昆虫の体のつくりについては、理科だけでなく保健の学習や総合的な学習の時間、また日常生活においても取り上げ、理解を深めていく。その際に既習内容にも触れ、復習したり比較したりできるようにする。 ・授業の進め方として、問題を解決するための実験や観察の際に視点もたせ、解決するまでの道筋を想定した上で自分の考えをノートに書くようにさせる。また、交流の機会を多く設け、他者の視点で分析したり解釈したりすることで考えを深めるようにさせる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は市や全国より低い。 ○「鉄棒に付着していた水滴と水の粒は、何が変化したものか書く」設問において、県や全国平均正答率より高い。 ●「結果から言えることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ」設問において、県や全国平均正答率より低い。	・「地球」の領域に関しては季節の天気や気温の変化、一日の気温の変化など、日々の生活体験や天気予報などのメディアを通して得られる知識もあり、折に触れて考えたり、感じたりする機会を意図的に設け、科学的な言葉や概念の理解につながるよう工夫する。 ・実験や観察の結果の考察においては、考えの根拠を述べることに重点を置き、その因果関係を捉えられるようにする。まとめを行う際や友達と交流を行う際に必ず述べることで、論理的な考察が行えるようにする。

宇都宮市立瑞穂野南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習については「自分で計画を立てて勉強していますか」の質問に、「よくしている」と肯定的に回答する児童が46.2%と県や全国の割合より15ポイント以上も高くなっている。また、「ときどきしている」も含めた肯定的な割合を合わせても、80.8%と県や全国の割合よりも高くなっている。家庭学習スタンダードをもとに家庭学習への取り組みの例示を行ったり、定期的な「家庭学習週間」を実施した成果と考えられる。今後も家庭学習の定着を維持させるとともに、より質の高い学習やICTを活用したドリルなどを取り入れながら、家庭学習の充実につながるよう指導していく。

○「PC・タブレットなどのICT機器をどの程度利用しているか」の質問に、「ほぼ毎日」「週3回以上」の割合が76.9%と県や全国の割合を15ポイント以上上回っている。また、「学校で、授業中に自分で調べる場面、PCやタブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」の質問に「ほぼ毎日」「週3回以上」の割合が県や全国の割合を約20ポイント上回っている。ICT機器を授業中や家庭学習などにおいて、児童が積極的に活用していることが分かる。今度も、「友達との意見交換」や「自分の考えをまとめる」などの場面において、ICT機器のよさを活用した授業の展開や、家庭学習でも積極的な活用ができるよう指導していく。

●読書活動について、平日の読書時間が10分未満と回答する児童が約80%だった。これは県や全国の割合より高かった。また、「読書は好きですか」の質問の肯定割合が約50%と、県や全国の割合より低かった。本校独自の取り組みである「よむよむタイム」(家庭読書の推進)や学校における読書活動をさらに充実させていくことで、児童の読書時間の増加につなげていく。

宇都宮市立瑞穂野南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本を大切に、主体的に学ぶ児童の育成	授業の導入場面における工夫や自己の学びを客観的に評価するための振り返りの工夫をしている。また、思いや考えを伝え合う力を活用し、主体的に学ぶ児童の育成を目指している。	課題解決に向けて自ら取り組むことができていると回答した児童の割合は80.8%である。また、考えを深めたり、学級やグループで話し合う活動に取り組むことができていると回答した児童はどの項目でも8割を超えて高くなっている。
家庭学習の習慣化に向けた取り組み	3～6年生は「家庭学習ファイル」を活用し、毎日の家庭学習の内容と学習時間を記録し、毎週振り返りをしたり、担任がよい学習方法などを紹介して参考にさせたりしている。また、家庭学習強化週間を設けて家庭と協力して取り組んでいる。	6年生では、「自分で計画を立てて学習する」と肯定的に回答する児童が80.8%と、県や国と比較して高い割合であった。また学習時間については、平日・休日ともに「1～2時間」と回答する児童が最も多くなっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
全ての教科・領域において県や国の平均得点を下回っている。基礎基本の定着に課題が見られる。	朝の学習や授業時における複数体制での指導及び指導形態の工夫(TT、習熟度別学習、)	朝の学習においては、担任だけでなく全職員を各学年に配置し、複数体制での採点および指導に当たる。問題を解いた直後に正誤が分かり、その場で修正することで学力を高められるようにしている。
算数では、思考を伴う応用問への解答に課題が見られた。	授業での学習内容を発展させた問題を解く場の設定。	算数科では、3年生以上の授業で人員配置を工夫し授業時の指導者が2名以上になるように工夫している。高学年の習熟度別学習では、単位によって授業担当や指導形態を変えるなど学習の効果を意識した指導を行っている。